令和８年度　第１回浜松市医療的ケア児等支援協議会

日時：令和８年７月１７日（金）
午後２時から
会場：浜松市口腔保健医療センター講座室

次　第

１．　開会

２．議事

（１）医療的ケア児等相談支援センター活動報告　資料１

（２）Rily 運用プロジェクトワーキング中間報告及び
医療的ケア児等情報提供同意者数について　資料２

（３）医療型短期入所に関する取り組み報告

（４）統一指示書作成についての報告

（５）資源調査報告　資料３

３．協議

４．閉会

浜松市医療的ケア児等支援協議会　委員名簿

外部委員　　（敬称略）

所　属		氏　名	備　考
	浜松医科大学	福田　冬季子	
	聖隷クリストファー大学	宮谷　恵	
会長	浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	遠藤 雄策	
	天竜病院	藤森　豊	
	浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	河合　希代美	
	Tomo こどもクリニック	佐藤　知子	
	県立西部特別支援学校	袴田　由美子	
	総合病院 聖隷三方原病院　聖隷おおぞら療育センター	沖村　宏美	
	浜松地区肢体不自由児親の会	里 あゆ子	
	在宅医療ケアのある子を持つ親の会	清水 恵美	
	指定障害児相談支援事業所くすのき	古橋　清史	

庁内委員

所　属		氏　名	備　考
	浜松市中障がい者相談支援センター	藤川　晴海	
副会長	浜松市障がい者基幹相談支援センター	本宮　早奈映	
	学校教育部　　教育支援課	今明　薫	
	健康福祉部　　健康増進課	仲谷　美樹	
	こども家庭部　幼保運営課	渡邊　仁	
	こども家庭部　子育て支援課	鈴木　由紀子	
	健康福祉部　　健康医療課	西崎　公康	

事務局

課　名	氏　名	備　考
浜松市医療的ケア児等相談支援センター	大木　茂	
	髙　真喜	
	藤田　恵理子	
健康福祉部　　障害者政策課	柴田　多美子	
	大庭　靖史	
	中谷　圭介	
	瀬尾　悠佳	

資料1

令和7年度

浜松市医療的ケア児等相談支援センター
「おりなす」
事業報告

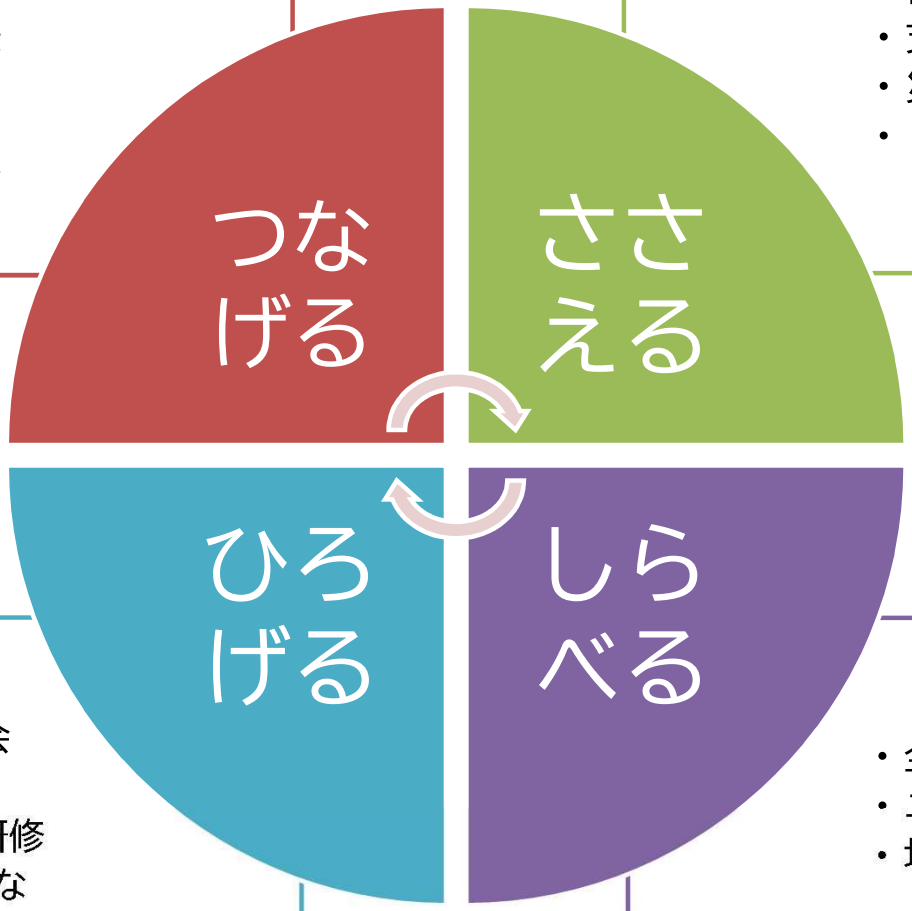
「おりなす」運営方針

医療技術の進歩等を背景に、増加傾向にある医療的ケア児者および重症心身障害児者(以下「医ケア児者等」)の地域での受け入れが促進されるよう、令和6年4月に浜松市医療的ケア児等相談支援センターが設置された。

保健・医療・福祉・教育等の関係機関と支援の調整を行い、医ケア児者等およびその家族が浜松市で安心して生活できるよう支援体制の構築と維持に努める。

ミッション	みんなの力で織りなす希望に満ちた「はままつ」
ビジョン	医ケア児者等とご家族が住みたい街「はままつ」
目　標	保健・医療・福祉・保育・教育・企業・行政の連携 「オールはままつ」の支援体制の構築

「おりなす」活動内容



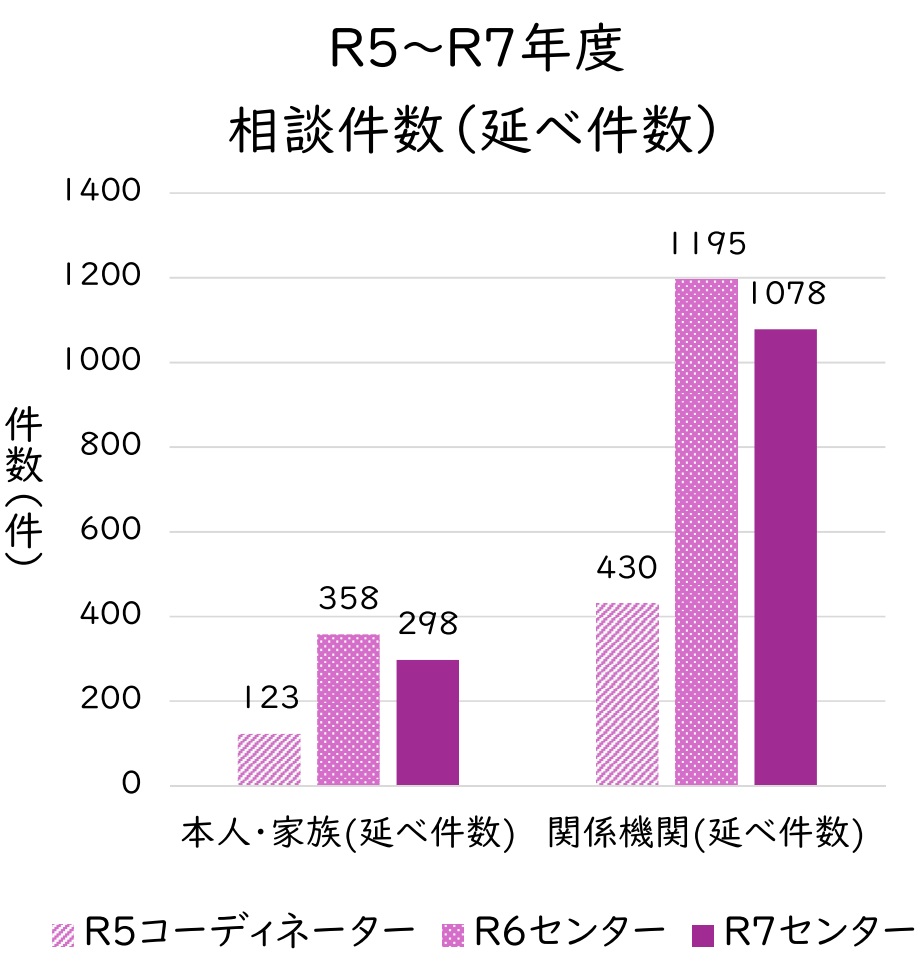
- コーディネーター業務
- 全国・県医療的ケア児支援
- センターとの連携
- 家族・きょうだいを
- つなげる・支える　など

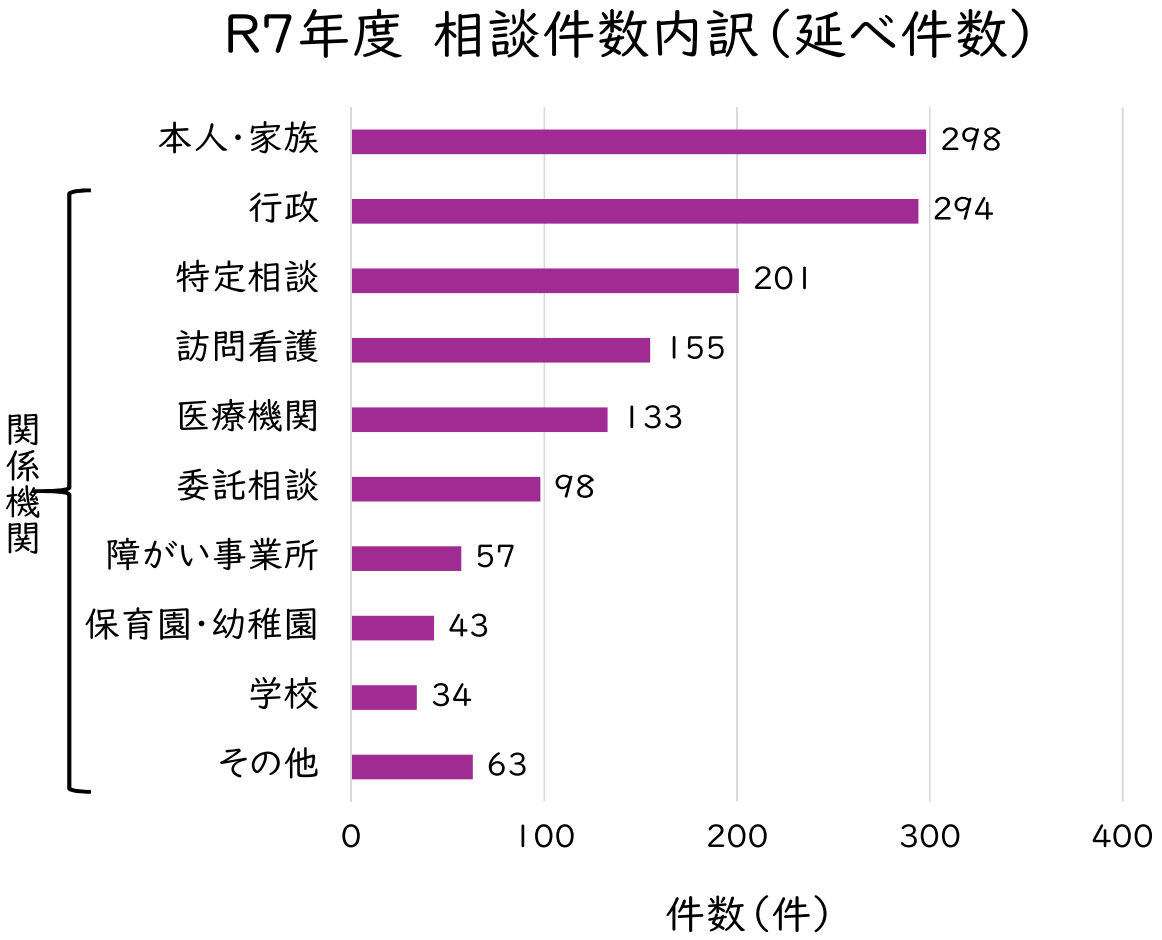
- 個別相談や機関からの相談
- 支援者向け研修
- 災害時要支援者名簿管理
- など

- 医療的ケア児等支援協議会
- 高校などへの出張講義
- 看護師等医療従事者向け研修
- など

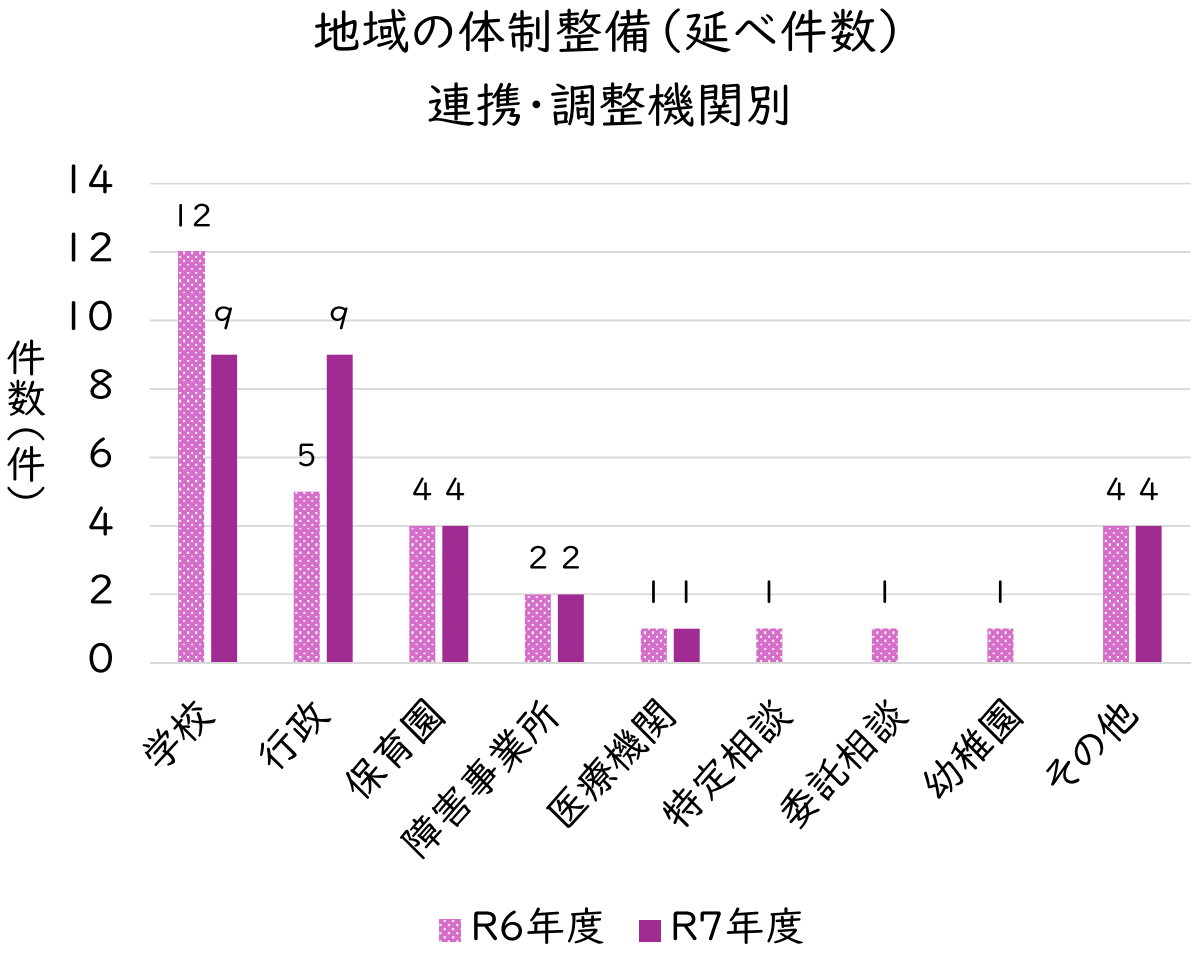
- 全数把握調査
- ニーズ・実態調査
- 地域資源調査　など

1.相談業務


R5～R7年度
相談件数（延べ件数）
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
件数（件）
123
358
298
430
1195
1078
本人・家族(延べ件数)
関係機関(延べ件数)
R5コーディネーター
R6センター
R7センター


R7年度 相談件数内訳（延べ件数）
関係機関
本人・家族
298
行政
294
特定相談
201
訪問看護
155
医療機関
133
委託相談
98
障がい事業所
57
保育園・幼稚園
43
学校
34
その他
63
0
100
200
300
400
件数（件）

2. 地域の体制整備



- 浜松市医療的ケア運営協議会に
  オブザーバーとして参加
- 医療的ケア児を新たに受け入れる
  園や事業所との打ち合わせ
- 医療的ケア実施校訪問　　など

3. その他の業務

	医ケア協議会	事務局会議	研修会	意見交換会	その他 地域体制づくり
令和6年度	2	12	4	4	57
令和7年度	2	12	24	4	69

※研修会には医療的ケア児者等支援者養成研修、看護師つながろう研修を含む

- 令和7年度は浜松市主催「医療的ケア支援者養成研修」のほか、看護師つながろう研修や医療的ケア児が通う園・学校・事業所等の職員を対象とした蘇生講習や緊急対応研修を実施
- 訪問看護ステーションを対象に、家族支援や気管カニューレに関する勉強会を実施
- 相談支援専門員連絡会エリア会で実施する事例検討会へオブザーバーとして参加

支援者のすそ野を広げるとともに、支援者の専門性向上を目的とした技術的支援を実施

おりなす

令和7年度
重点項目

（1） 実態調査・資源調査

（2） 災害時支援

（3） 医療的ケア児者等
支援者支援

（1）実態調査・資源調査

【しらべる】

有効回答数：233件

【調査概要】

調査目的：医療的ケア児者、重度障がい児者、肢体不自由児者および
介護をされている家族の生活状況や医療的ケアの状況について
把握し、今後の施策推進に役立てる

調査対象：浜松市内在住の在宅生活をしている64歳以下の
医療的ケア児者、重症心身障害児者、肢体不自由児者とその家族

調査期間：令和7年6月2日（月）～令和7年7月31日（木）

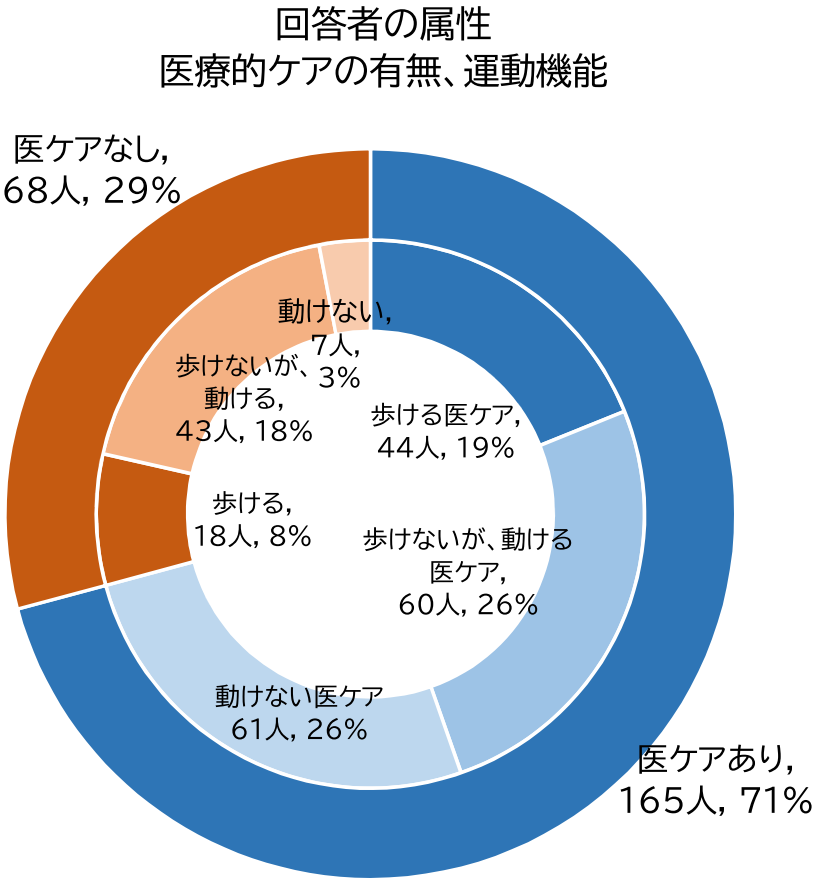
調査方法：Googleフォーム

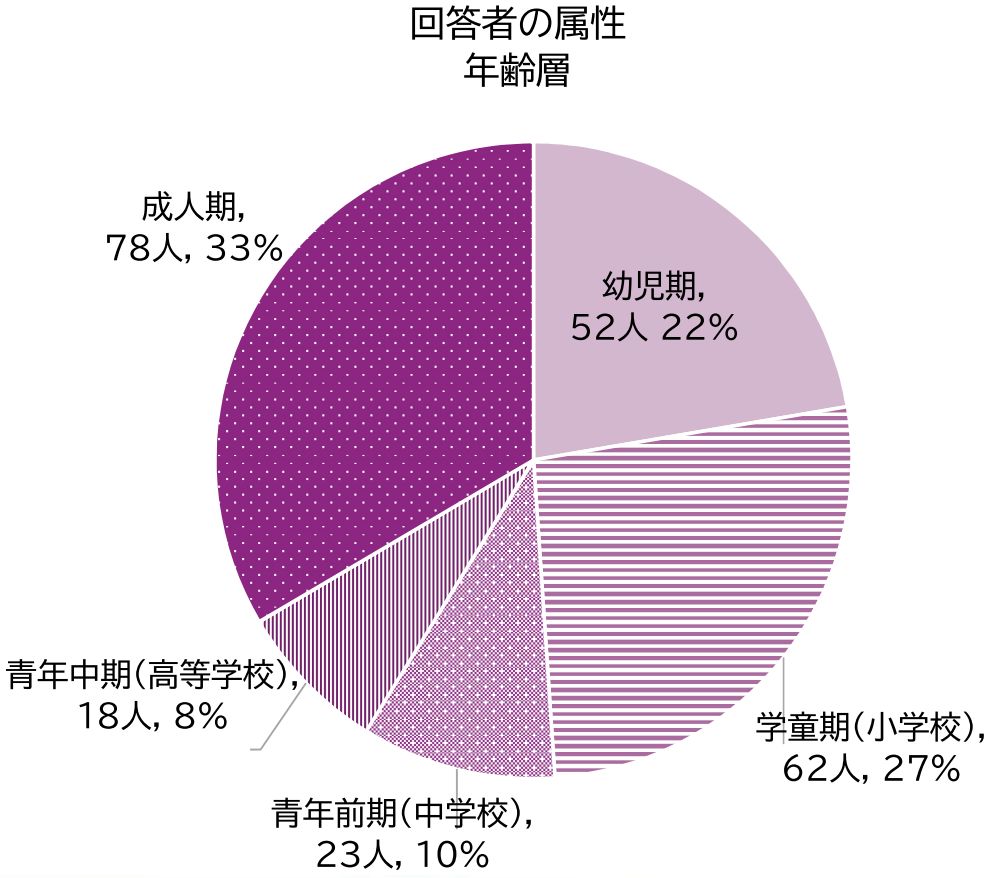
調査項目：全50問 （うち自由記載 7問）

・障がい児者（ご本人）について	問 1-20（20問）
・介護者について	問21-29（ 9問）
・医療的ケアについて	問30 （ 1問）
・福祉サービス等について	問31-50（20問）

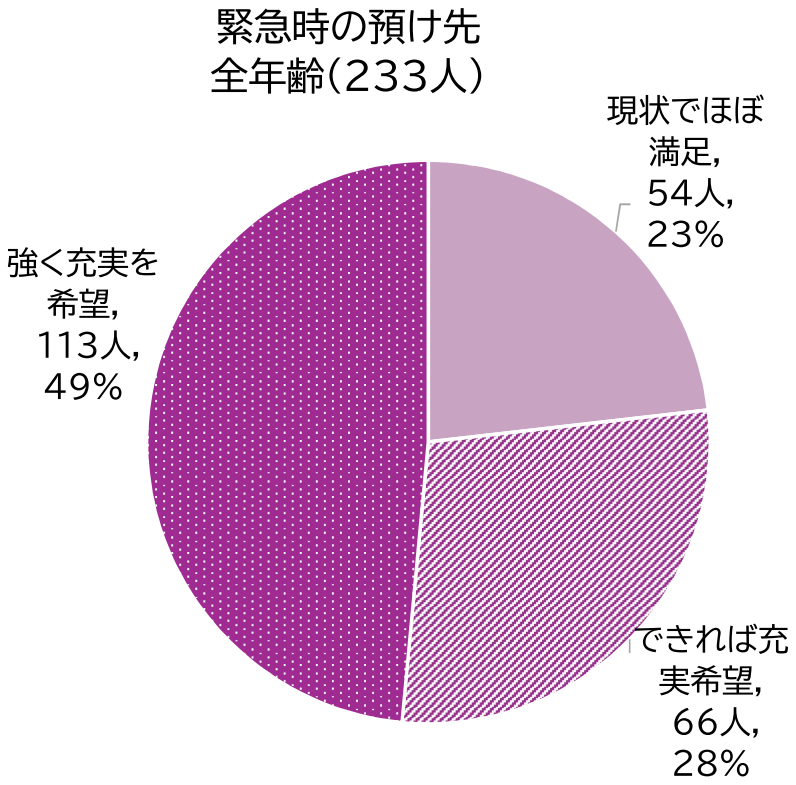


(1)実態調査・資源調査 【しらべる】





（1）実態調査・資源調査 【しらべる】



- どの年代においても
  「緊急時の預け先」のニーズが高い

→ 令和7年度医療的ケア児等支援協議会第2回全体会
協議事項：
「緊急時を含めた短期入所受け入れ拡充に向けて」

→ 合同事務局会議にて
医療的ケア児者の緊急時対応拡充に向けて検討中

（1）実態調査・資源調査
【しらべる】

【児童発達支援事業所・児童発達支援センター】
42件（回収率：50.0%）

【放課後等デイサービス事業所】
62件（回収率：44.3%）

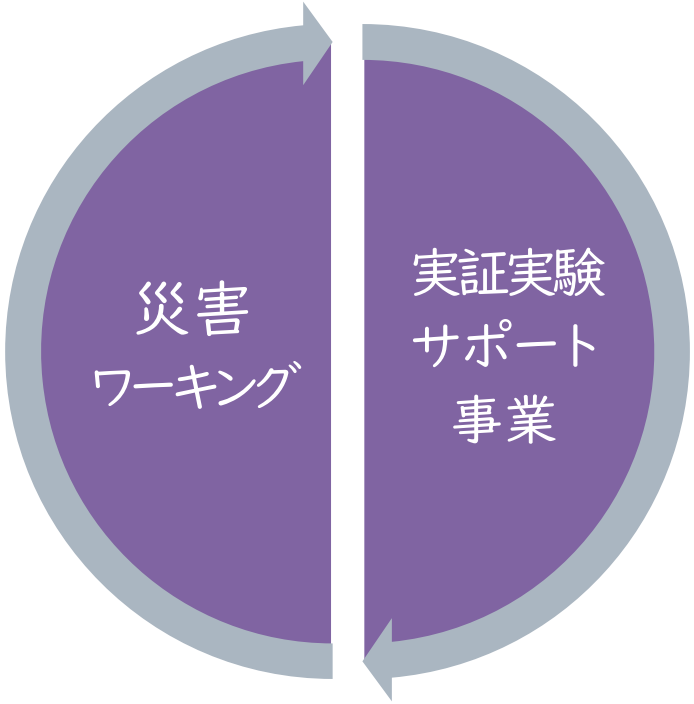
【生活介護事業所】
54件（回収率：73.0%）

※回収率は令和8年2月3日時点の事業所数を参考に算出



(2) 災害時支援 【ささえる】

- 情報提供書兼同意書
  兼個別支援計画書の
  新規登録＆更新登録の推進
- 医ケア名簿の管理



- 実証実験への参画
- 医療的ケア児者情報管理・
  連携システム(Rily)を活用
  したトリアージ方法の検討

令和8年度～ Rily運用プロジェクト（ワーキンググループ）
医療的ケア児者情報管理・連携システム（Rily）運用開始に向けて
Rilyの運用方法や普及方法について検討を行っていく

（3）医療的ケア児等支援者支援 【ささえる】 【つなげる】

＊ おりなす講演会	テーマ「医療的ケア児の保育～地域でともに育つ～」 青森県小児在宅医療センター　網塚 貴介先生 参加者：88人
＊ 看護師つながろう研修（再掲）	テーマ「備えよう！支えよう！災害で看護師にできること」 参加者：20名
浜松市医療的医ケア児等 支援者養成研修（再掲）	● PART1「医療的ケア児の公立学校への入学、学校生活の実際を知ろう」 参加者：42人 ● PART2「医療的ケアを知り、物品に触れてみよう」 参加者：21人
当事者家族との 意見交換会	● ぞうさんの会座談会　参加者：12人 ● サバイバルキャンプ ぼうさい座談会　参加者：32人 ● 医療的ケア児等を持つ保護者への意見を伺う会　参加者：19人
＊ 園・学校・事業所向け 出前講座（再掲）	延べ21件 参加者：延べ545人

おりなす

令和8年度
重点項目

（1） 資源調査

（2） 災害時支援

（3） 本人・家族支援

（4） 支援者支援

（5） 地域をはぐくむ

資料２－１

R8.7.17 開催
令和 8 年度第 1 回医療的ケア児等支援協議会資料

Rily 運用プロジェクトワーキングについて

１．目的　　浜松市医療的ケア児者情報管理・連携システム（Rily）の運用について検討する。

２．開催期間　　令和８年６月～令和９年３月（予定）

３．構成員

	氏　名	所　属		氏　名	所　属
庁外	杉浦　弘	聖隷浜松病院	庁内	石川　博則	学校教育部 教育支援課
	福田　冬季子	浜松医科大学			
	河合　希代美	訪問看護ステーション連絡協議会	事務局	大木　茂	医療的ケア児等相談支援センター
	本宮　早奈映	浜松市障がい者基幹支援センター		髙　真喜	
	大柳豆　勇太	浜北・天竜障がい者相談支援センター		藤田　恵理子	
	新村　直由	相談支援事業所さんさん		中谷　圭介	障害者政策課
	守屋　美穂子	生活介護る～ちぇ		瀬尾　悠佳	
	石川　和也	浜松児童福祉会はぐくみ			
	酒井　格子	児童発達支援センター ひまわり			
	本杉　和美	西部特別支援学校			

４．活動内容

ワーキングの開催

開催日	内　　容
第１回 令和 8 年 6 月 15 日	◎浜松市医療的ケア児者情報管理・連携システム（Rily）の概要について ・在宅の医療的ケア児者の平常時の情報共有と災害時の迅速な支援のため、医療的ケア児者（保護者含む）、支援者及び管理者を円滑につなぐ支援体制の構築を目的としている。 ・平常時は管理者・支援者が掲示板機能等を活用することで、支援者間の情報共有を図り、利用者に関する情報を最新に保つことができる。 ・発災後直後、24 時間、36 時間と時間経過に応じて、管理者から安否確認のための第 0 報から第 3 報を発出し、その回答から被災者のライフラインの確認等を行うことができる。 ・災害時には利用者も掲示板機能を利用することで、必要時、支援者と直接コミュニケーションをとることができる。

	◎活動目的について ①使用方法の周知/100%登録を目指した仕組みづくり ②平常時の運用方法の検討 ③災害時の運用方法の検討
第 2 回 令和 8 年 7 月 1 日 （zoom 開催）	◎テストアカウントを用いたデモンストレーション実施 ・メンバーそれぞれが実際に操作しながら、画面の表示内容等について話し合いを実施。 ・メンバーそれぞれの所属団体における周知（案）を共有。

５．今年度の活動内容について

第 3 回：令和 8 年 7 月 31 日（金）予定

・具体的な周知方法、周知のタイミング等について検討。

R8.7.17 開催
令和 8 年度第 1 回医療的ケア児等支援協議会資料

資料２－２

医療的ケア児等情報提供同意者数について

１．対象者

浜松市在住、在宅で生活している医療的ケア児者

２．情報提供同意者数

1,127 人（R8.5.31 時点）

内訳（R8.5.31 現在）

年齢	実人数	医療的ケア内容（延人数）							
		人工呼吸器	在宅酸素	吸引	気管切開	導尿	輸液ポンプ	経管栄養	透析
0～2 歳	19	11	7	6	6	2	1	13	0
3～6 歳	25	8	14	13	9	1	3	15	0
7～17 歳	105	22	40	59	14	8	2	64	0
18～64 歳	329	48	49	73	28	15	6	61	171
65 歳以上	649	13	85	33	19	2	0	12	460
計	1127	102	195	184	76	28	12	165	631

※上記以外の医療的ケア:インシュリン注射、吸入、ストマ、在宅持続陽圧呼吸療法等

３．新規ケース把握について

・NICU のある総合病院が対象者を把握した際、医療的ケアに関する情報提供書兼同意書を配布
・市内訪問看護ステーションへの「訪問看護の情報提供書」提供依頼継続

４．情報提供書兼同意書受付状況

令和 7 年度　新規：19 件
　　更新： 3 件
令和 8 年度　新規： 0 件
（R8.5.31 時点）　更新： 0 件

資料3

令和７年度 浜松市内障害福祉サービス等事業所資源調査 調査結果報告

1. 調査概要

調査目的：市内の事業所状況について把握し、今後の施策推進に役立てること

調査対象：浜松市内の

- 児童発達支援センター・児童発達支援事業所
- 放課後等デイサービス事業所
- 生活介護事業所
- 日中一時支援事業所（単独）

調査期間：令和8年1月7日～令和8年1月23日

調査方法：Google フォーム

調査項目：

	児童発達支援事業所・児童発達支援センター	放課後等デイサービス事業所	生活介護事業所	日中一時支援事業所（単独）
事業所概要 サービス提供体制について	40 問	40 問	40 問	39 問
統一指示書について	2 問	2 問	2 問	2 問
災害対策・災害対応について	6 問	6 問	6 問	6 問
多機能事業について	5 問	5 問	5 問	-
福祉全般や事業所運営について 課題と感じていること	1 問	1 問	1 問	1 問
医療的ケア児等相談支援センター（おりなす）について	4 問	4 問	4 問	4 問
計	58 問	58 問	58 問	52 問

2. 有効回答数（回収率）

※令和8年2月3日時点の事業所数（浜松市オープンデータ）を参考に算出

- 児童発達支援センター・児童発達支援事業所：42 件（回収率：50.0%）
- 放課後等デイサービス事業所：62 件（回収率：44.3%）
- 生活介護事業所：55 件（回収率：73．3%）
- 日中一時支援事業所（単独）：1 件（回収率：100．0%）

⇒ 未回答の障害福祉サービス等事業所のうち、医療的ケア児者に対応している事業所に対しては、個別に確認していく予定

3．調査結果（一部抜粋）

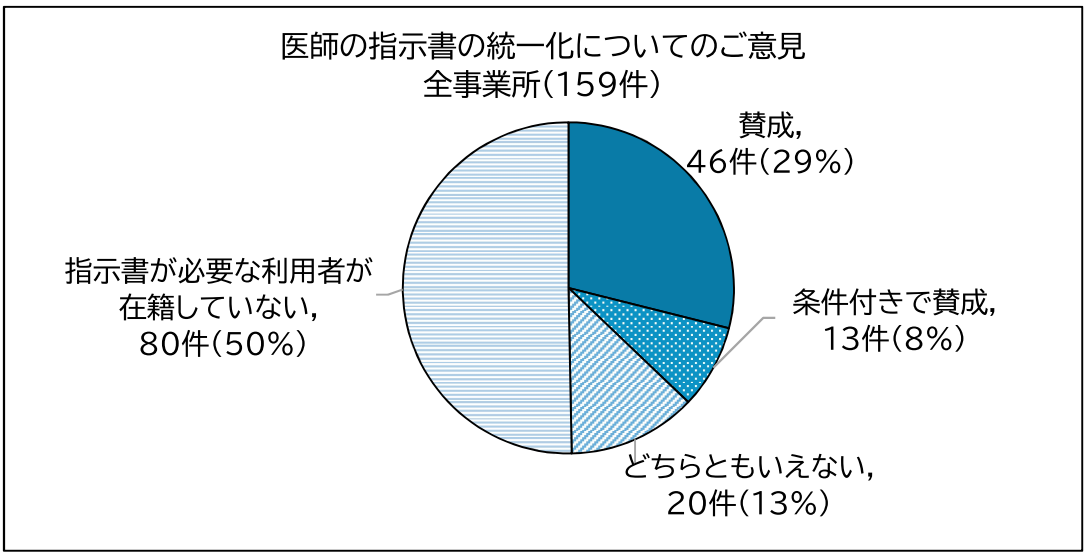
1）統一指示書についてのご意見

（1） 浜松市医療的ケア児等相談支援センター（おりなす）では、医師の指示書の統一化（24 時間枠での指示書を一枚作成し複数施設利用可能）を検討しています。ご意見を教えてください。

（賛成/条件付きで賛成/どちらともいえない/反対/指示書が必要な利用者が在籍していない）

※（）は各障害福祉サービス等事業所種別内での％

	賛成	条件付きで賛成	どちらともいえない	指示書が必要な利用者が在籍していない	（件）
児童発達支援事業所 児童発達支援センター	10 （23.8%）	3 （7.1%）	6 （14.3%）	23 （54.8%）	42 （100%）
放課後等デイサービス事業所	16 （25.8%）	7 （11.3%）	8 （12.9%）	31 （50.0%）	62 （100%）
生活介護事業所	19 （35.2%）	3 （5.6%）	6 （11.1%）	26 （48.1%）	54 （100%）
日中一時支援事業所 （単独）	1 （100%）				1 （100%）



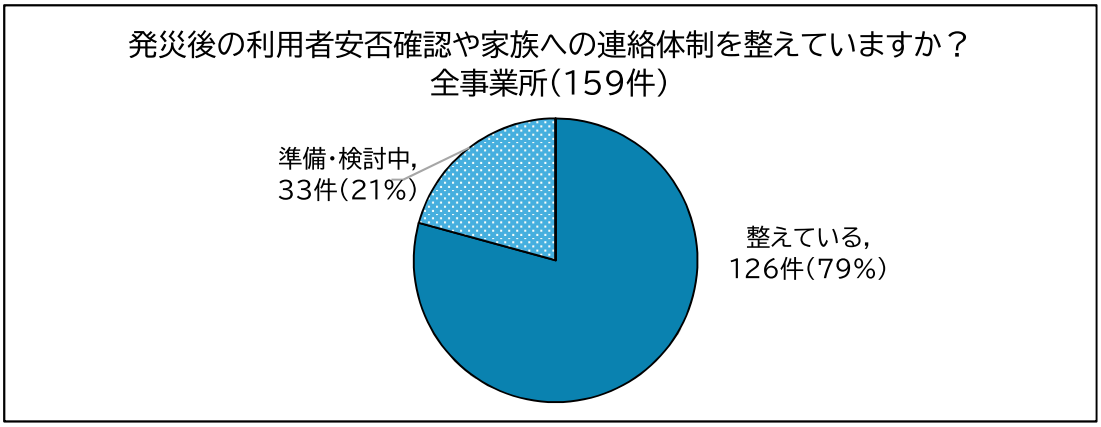
（2） 指示書統一化についてご意見があればお教えください。（要約）

- 複数の施設を利用している家庭にとっても、医療機関にとっても効率の良い方法だと思う。
- 保護者の金銭的な負担が少なくなるといいなと思う。
- 様式を見ていないので、全面的に賛成とは言い難い。
- 認識の差異が生まれにくくなり、統一した支援の提供や情報共有がしやすくなる。
- 受け入れ施設によって必要な情報が異なる場合には、統一した様式で網羅できるのか心配。
- 事業所の特性や体制により、指示書に書かれている支援が必ずしもできるとは限らない。

2）災害対策・災害対応について

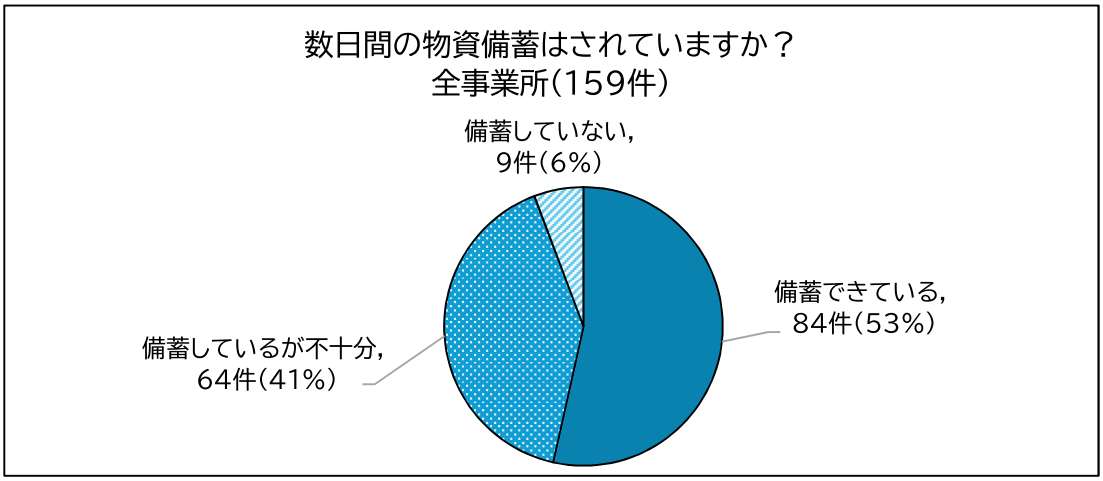
（1） 発災後の利用者安否確認や家族への連絡体制を整えていますか？

（整えている/準備・検討中/検討していない）



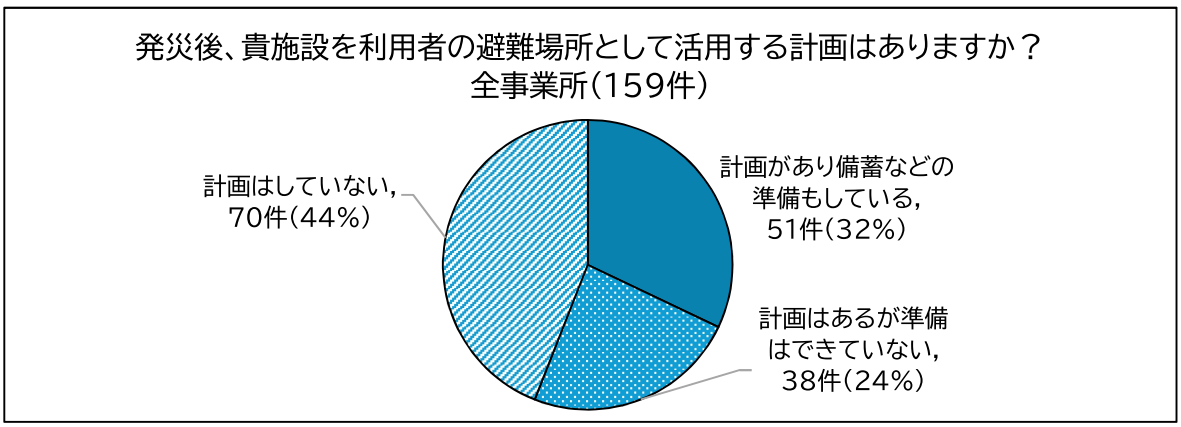
（2）帰宅困難の利用者・スタッフが一定数発生すると想定されますが、数日間の物資備蓄はされていますか？

（備蓄できている/備蓄しているが不十分/備蓄していない）



（3） 発災後、貴施設を利用者の避難場所として活用する計画はありますか？

（計画があり備蓄などの準備もしている/計画はあるが準備はできていない/計画はしていない）



3） 福祉全般や事業所運営について課題と感じていること

（1）児童発達支援センター・児童発達支援事業所（要約）

・**人手不足**：慢性的に人手が不足している。一人の職員にかかる負担が大きくなっている。報酬単価の引き上げと報酬が現場スタッフに還元される仕組みづくりが必要。
・**運営・管理業務**：利用単価が低く、特に欠席が多い月は経営が不安定になりやすい。強度行動障害児や重症心身障害児の受け入れに関する報酬が低い。提出書類が多いので、簡略的に分かりやすくしてほしい。
・**看護体制の充実**：保育園や幼稚園での看護師配置の充実や、訪問看護派遣の仕組みを市全体で構築することで、医療的ケア児が園や学校で過ごせるようにしてほしい。医療的ケア児の受け入れを行っていきたいが、医療的ケア児と多動な児が同じ空間で過ごすことを想定した場合に、安全確保のため配置基準以上の職員が必要となる。一人看護師体制の重責を感じる。
・**通園先との情報共有**：並行通園児について、園と情報共有や、児についての認識を一致させることが難しい。通園を優先したい保護者の思いと、利用児本人の表れにずれが生じる。
・**預かりニーズへの対応**：働く保護者が増えたことで親子療育の利用者が減っている。園への送迎を求められる。支援時間が短く、保護者のニーズと合っていない。
・**保護者支援**：疲弊する保護者への介入やサポートが不足している。
・**サービス移行**：児童発達支援から放課後等デイサービスへ切り替わる際の選択肢が少ない、あるいは放課後等デイサービスを利用できない。

（2）放課後等デイサービス事業所（要約）

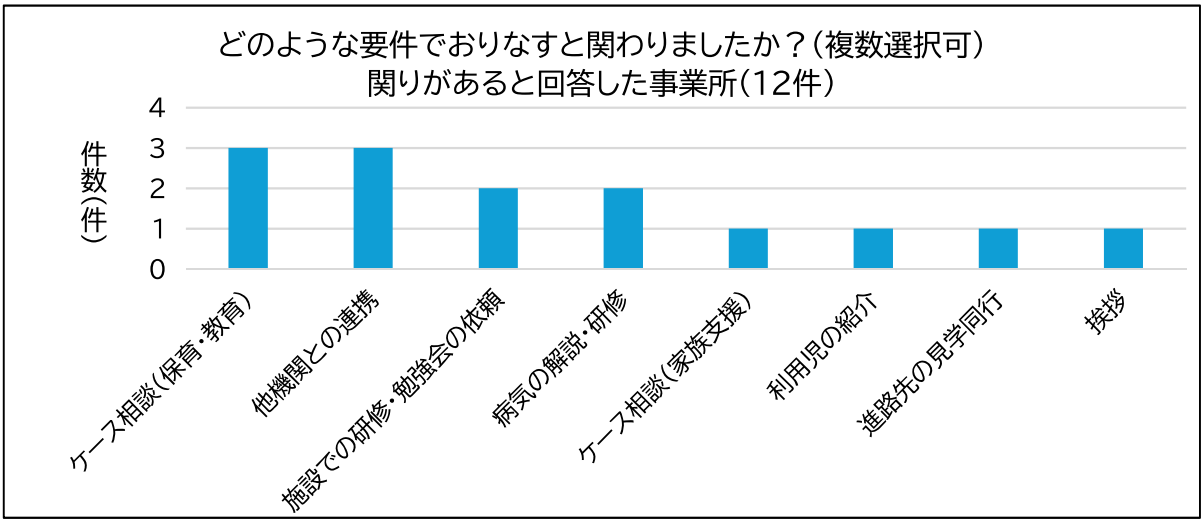
・**人手不足**：報酬が少なく、人員の確保が難しい。人材育成が進んでいない。配置基準が厳しく、スタッフが休んだり、研修に参加したりすることに難しさがある。
・**運営・管理業務**：細かい事務作業や作成書類が多く、利用者支援に向けられる時間が削られている。加算に頼らなくてもよい報酬改定を望む。運営に手一杯で要望まで至らない。医ケア児や重症心身障害児の利用者が多く介助度が高く、人員を多く配置しているので報酬単価が見合っていない。重症心身障害児の判定が出ない場合、介助度が高くても報酬に反映されない。
・**学校との情報共有**：学校との情報共有、教育支援計画と個別支援計画との連動が難しい。
・**事業所数・定員数の不足**：利用を希望されても空きがなく断らざるを得ないケースが多い。
受給者証上の支給日数分利用できない利用者がいる。
・**災害時の対応**：災害時の対応について行政と事業所、事業所同士がどのように連携していくのか考える必要がある。物資の備蓄スペースの確保や全利用者の数日分の食糧確保が難しい。
・**サービス移行**：卒業後に利用できる事業所が少ない。特に医療的ケア児を受け入れ可能な事業所が増えてほしい。

（3）生活介護事業所（要約）

・**人手不足**：賃金水準や社会的評価が追い付いていない。専門職種の確保が難しい。紹介業者から頻繁に連絡があるが、紹介料が高額。紹介業者を介さないマッチングの仕組みがほしい。
・**運営・管理業務**：重症心身障害者、医療的ケア者など体調が安定しない方を多く受け入れているため、安定した利用率が得られにくい。加算や報酬改定に伴う事務量の増大、実地指導・監査への対応が、本来の支援時間を圧迫している。制度が複雑で、解釈に地域差がある。アンケート調査を減らしてほしい。重複している調査はまとめてほしい。
・**送迎の課題**：送迎範囲が広域にわたるため、現在の送迎加算では運行が厳しく、事業所の持ち出しが多く発生している。送迎事業の見直しを強く望む。送迎範囲外であることを理由にお断りする場合がある。
・**現場スタッフの負担**：体格の良い利用者や重度の利用者が増え、スタッフの腰痛などの身体的負担が大きく、若い職員や男性職員の確保が必要。
・**利用者と家族の高齢化**：利用者の介護度・医療依存度が上がる一方で、保護者も高齢化しており、「親亡き後」の入所施設の不足が懸念される。現行の報酬では入所施設の人手不足も解決しないので、市による補助を検討してほしい。

4） 医療的ケア児等相談支援センター（おりなす）について

（1）どのような要件でおりなすと関わりましたか？（複数選択可）



（2）おりなすへ相談した際の満足度についてお答えください。

（5：十分満足、4：まあまあ満足、3：どちらでもない、2：やや不満、1：とても不満）

11 事業所より回答あり ⇒**平均満足度：4.2**

・ 新規希望者の見学時に付き添いで来て頂き、事前にも情報が得られ、助かりました。
・ 多岐にわたる活動や取組みをなされていると実感しております。
・ 医ケア児の就園・就学に向けた相談をした際に親身に相談に乗っていただきました。
またケースの相談があった際に、スピーディーに対応していただけました。
・ 丁寧につないでくださいました。